

4-6

庶発第286号 昭和32年5月4日

科学技術庁長官 宇田 耕 一 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

科学技術者の優遇について(申入)

標記のことについて、本会議第24回総会の議を経て、下記のとおり申し入れます。

記

政府は、科学技術者優遇の主旨に基づき、公務員給与制度の改革に当つて、教育職のほか、研究職、医療職等の職種をもうけて、それぞれに応ずる俸給表を作成した。それは、必ずしもわれわれを十分満足せしむるものではないが、その改善は今後につとめとし、今回作成された俸給表の実施に際しては、かねてから本会議が要望しているごとく、科学技術者が十分優遇されるよう運営されることを期待する。

4-7

庶発第287号 昭和32年5月4日

科学技術庁長官 宇田 耕 一 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

放射性塵の研究について(申入)

標記のことについて、本会議第24回総会の議を経て、下記のとおり申し入れます。

記

最近におけるわが国科学者の諸研究の結果は、核爆発によつて生ずる放射性塵が人類の生命、子孫への遺伝に対し、恐るべき影響を与えるであろうことを強く警告している。

われわれは、この方面での研究がさらに徹底的に推進され、その成果によつて人類のこうむる被害が最小限にとどめられることを切望する。

しかるに、現状においては、わが国におけるこの方面の研究費がなお極めて不十分であつて、到底緊急の要望に応じられない。

よつて、政府は、至急特別の予算措置を行ない、その研究が一日も早く完成するよう配慮されたい。

4-8

庶発第291号 昭和32年5月6日

科学技術庁長官 宇田 耕 一 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

発電用原子炉の輸入について(勧告)

標記のことについて、本会議第24回総会の議を経て、下記のとおり勧告します。

記

最近、わが国の急迫したエネルギー事情と関連して、原子力発電を実用規模で実験するための発電用原子炉をできるだけ早く輸入ということが課題となつている。

この発電用原子炉の輸入は、それが長期基本計画の一環としてなされるべきであり、特に、当該原子